

## 地域ネットワーク勉強会の発足

神栖町社会福祉協議会（以下「神栖社協」と称する）は、昭和61年の法人化以来一貫してコミュニティーケアのしくみづくりに力点をおいた活動を展開してきました。特に平成6年の「地域ケアシステム推進事業」実施を契機に、まず各専門分野の専門職が「不安無く暮らせるまちのしくみをつくろう・住民の生活課題を解決できる機関同士がしっかり連携し合おう」という共通理解を得ることとケアマネジメントを学ぶため、月1回のケアカンファレンスを実施してきました。

約7年間、述べ80回に渡るこの取り組みによって各専門職がケアマネジメントの重要性や手法を学ぶことができましたし、それぞれの機関がどういった視点で相談者と関わらなければならないのかをみんなで確認することができました。そして少しずつではありますが利用しにくかったサービスが改善されたり、新しいサービスが生まれたり、カンファレンスの成果のようなものを参加機関同士で実感できるようになってきました。

そんな中、この実務者によるケアカンファレンスに発足準備段階から関わってくれていた「A医院」のN先生と「こういう場ってというのは、他にも医師や薬剤師、介護をしている人やボランティア、住民の皆さんなども参加したいと思っているんじゃないかな〜」「たくさんの人達に様々な社会的サービスを正しく理解してもらいたいね」等々の話をし、それなら「誰でも自由に対等の立場で参加できる場をつくろう」ということになったわけです。そしてこの集いは、情報を得たい人・情報を伝えたい人・ちょっとお勉強したい人・住民の生の声を聞きたい人・他機関の人と知り合いたい人達など「誰もが自由に立ち寄れて気に入ったテーマの電車に乗れる。そんな『プラットホーム』にしたいね」という思いからスタートしたのです。平成九年の秋頃のことでした。

決して難しい事ではありません。「月に一度くらい集まって知り合うこともいいね」が始まりで、思いと場所と時間があれば誰とでも簡単につくれることだと思います。

## 地域ネットワーク勉強会の内容

今回の発表メンバーは、たまたま専門職ばかりになってしまいましたが、この勉強会は専門職によるケアカンファレンスとは違います。専門職のため、介護保険のための勉強会でもない。カンファレンスをしてケースアクション・ソーシャルアクションを起こしているわけでもありません。純粹に出会いたい・学びたい人達が自由に気兼ねなく参加でき、ゆるやかなネットワークをつくれる場です。専門職は専門家としての鎧（よろい）を脱いで、一住民として参加できる。主催も行政でも社協でもありません。あくまでも参加者発の集いです。今のところ社協が幹事役としてニュース（資料参照）を作り情報を発信しているだけです。

このようなかたちの集いを繰り返していくうちに、自由に何でも言い合える雰囲気が出てきました。「ここは変えられないの？・こんなふうにしたほうが利用しやすい！・こうした工夫をされるといいよ！」などの意見やアドバイス、時には言い合いになったりもします。しかし単なる批判ではなく自然にひとつ一つの制度やサービスを住民の立場から『評価』しあえるようになってきたのです。このような繰り返しから実施機関が本来的な役割を再認識できたり、より良いものに修正するキッカケとしてくれたりしました。

## 地域ネットワーク勉強会の成果

結果として現場では訪問看護師さんからヘルパーへ、訪問リハからデイサービスへとスムーズにバトンタッチができるという安心感が生まれてきましたし、介護をしている人が遠慮なく相談を持ちかけてくれるようにもなってきました。悩んだとき・問題が起きたときは、すぐに連絡を取り合える・カンファレンスの必要なときも何とか時間をつくってくれる等、「知っていたから良かった」と感じられることが多くなってきました。また、ここで知り合えた仲間同士が各機関の研修会の講師を務め合うなど、参加することで見つけたヒューマンネットワークが組織間、組織・団体間のネットに発展したりすることも増え、みんながこの勉強会を有効に利用できる様にもなってきました。

実を申せば今回の発表をするにあたり、何度か打ち合わせを行ってきた中で「神栖じゃ、下手なことできない！」ということばがメンバーから何度も出てきました。これは神栖で住民のくらしに関わる機関や団体が、生活者の視点で自身の役割を見つめ直し、「それぞれの機能をしっかりと発揮していこう」とする思いと行動にプライドを持ちはじめ、協力し合うことで生まれた良い意味での手枷足枷があることを感じさせてくれたものでした。

それぞれがバラバラに動いていたらチームアプローチなどできるわけなどない。共通理解の場があって、同じ方向を向けるようになってはじめてチームアプローチが可能になるのだと思います。そんな「場」をみんなで作り上げていくことが大切なんだと思います。

先ほどのK先生の「がんばらない」の中で「命を支えるために本人や家族の希望をできるだけかなえる支援を一生懸命医療機関が地域に近づきながら実行してきた」というすばらしいお話を聞くことができました。とても考えさせられました。在宅に関わる私達の側は、「くらしを支えることなら私たちに任せてください」と言えるくらい逆に頑張らなければならない。もっとレベルアップして連携のしくみを強化していかなければならないと強く感じました。そのためにも知り合える場、情報公開の場、共通理解の場、研修の場として、この勉強会を盛り上げ様々な分野のたくさんの方々との出会いの中で共にネットワークを強く大きくしていきたいと思っています。ありがとうございました。

神栖社協 K